

第35回 法人会全国青年の集い佐賀大会の報告

令和3年11月26日(金)に第35回全国青年の集い佐賀大会が佐賀市で開催されました。全国の青年部会員を始めとする約550名が現地に、また今回コロナ禍対策として約2,000名がリモート出席者として参加し、当会からは柚友部会長が参加しました。

大会式典は、川代大会会長の開会の辞に始まり、主催者である全法連青年部会連絡協議会佐藤会長、全法連小林会長の挨拶に続き、来賓の国税庁課税部長、佐賀県知事、佐賀市長から祝辞を頂きました。その後、青年部会員増強運動の表彰やその日の午前に行われた租税教育活動プレゼンテーション、そして今回がプレ開催となる健康経営大賞事例紹介の審査結果発表があり、租税教育活動部門で最優秀賞を受賞した佐賀県連佐賀法人会青年部会、健康経営大賞部門では静岡県連磐田法人会青年部会、北海道・札幌北法人会会員のアイビック食品株式会社様の事例発表がそれぞれ行われました。

租税教育活動事例では「税金を通して佐賀の未来を考えよう～もしも私が佐賀県知事だったら～」をテーマに、実際に佐賀知事選挙を立候補者・投票者として疑似体験することで、税金の使い道を決めることの難しさや大切さ、またそれらを決める人を選ぶ選挙の大事さを児童生徒が自分のこととして感じられるような工夫をしていました。

健康経営大賞の事例紹介は磐田法人会が「KENCO de 社会 COKEN」と題し大同生命のアプリを使用した健康増進・社会貢献方法を、そしてアイビック食品株式会社様が独自の「生涯幸福設計シート」を利用した福利厚生制度を発表するなど、次回の本開催に向けて大いに参考となるような事例紹介でした。

式典の最後は、「つなぐ維新のちから 輝ける大切な未来へ」の気持ちを胸に、今まで培ってきた絆を大切にしつつリモート参加や Web 投票システムなど新たな試みを取り入れ、前回開催を断念した島根大会からの想いを引き継ぎ次の沖縄大会へ法人会の理念を「つなぐ」決意を表明した牧瀬実行委員長の佐賀大会宣言で締めくくられました。

記念講演では、バラエティ番組、女性誌のモデル、情報番組のコメンテーターを務め、近年では身体美容家としても活動している優木まおみ氏が、「身体と心・仕事と家庭バランス良く過ごすために」と題して講演されました。芸能と仕事と家庭とのバランスや、労いの言葉が家庭円満の秘訣ということ、また自身が考案した体操『マオピクス』の一例を紹介し川代大会会長と一緒に行うなど的一幕もありました。芸能人、二児の妻、会社経営者の三役をこなす優木氏の多様な視点からの語りは大きな学びとなりました。

今回の青年の集いに参加して、法人会事業の柱である税制改正提言活動や青年部会を中心とする租税教育活動の全国展開等を通じて法人会の存在意義を確認し、法人会事業に携わる者としての誇りと自信を得、大いに意を強くしました。